

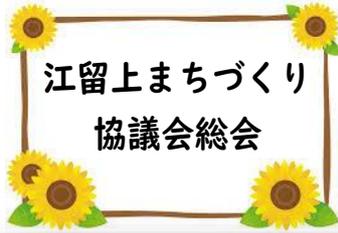
住所 坂井市春江町江留上大和4-8 TEL・FAX 51-0829  
E-mail edomekami-cc@city.fukui-sakai.lg.jp



発行：江留上まちづくり協議会 総務

Instagram 江留上コミュニティサー

で検索



江留上まちづくり  
協議会総会

5月11日(日)令和7年まちづくり協議会総会が行われ、60名が出席し、前年度の事業・収支決算報告ならびに令和7年度の事業計画案(次頁掲載)・収支予算案・規約改正案・役員改選案などが審議され、いずれも承認されました。



会長あいさつ



ご来賓あいさつ

よろしくお願ひします。



令和7年度 江留上まちづくり協議会 役員紹介

※敬称略

| 役職      | 氏名    | 地区    | 役職       | 氏名     | 地区  |
|---------|-------|-------|----------|--------|-----|
| 会長      | 増田 敏夫 | 昭和    | 監事(中央区長) | 漆崎 光彦  | 中央  |
| 副会長     | 渡邊 眞吾 | 中央    | 監事(昭和区長) | 小川 信治  | 昭和  |
| 副会長     | 鈴木 英雄 | 本町    | 大和区長     | 松浦 英幸  | 大和  |
| 副会長     | 渡邊 祥成 | 旭     | 本町区長     | 西畑 智史  | 本町  |
| 副会長     | 北川 誠一 | 緑     | 緑区長      | 漆崎 行乃利 | 緑   |
| 事務局長・会計 | 坪川 淳一 | コミセン長 | 日の出区長    | 前畠 勇   | 日の出 |
| 子ども部会長  | 宮永 陽子 | 大和    | 旭区長      | 中島 栄一  | 旭   |
| 福祉部会長   | 嶋 和男  | 中央    | 新町区長     | 石田 政三  | 新町  |
| 環境部会長   | 南部 成男 | 旭     | 錦区長      | 瀬戸 利実  | 錦   |
| 防災部会長   | 牧井 正人 | 緑     |          |        |     |

まちづくり協議会の各部会では、部会長と運営委員が力を合わせて、生活の潤いと楽しさを感じていただけるような活動を企画します。また、今年は特に防災について力を入れて、安心安全の上に立った「幸せを実感できる」江留上区を目指します。今後ともよろしくお願ひします。

江留上まちづくり協議会会長 増田敏夫

# 令和7年度事業計画

「笑顔 あふれる 安心して住めるまち 江留上」

## ★総務部★

- ・広報紙「かみむらだより」発行（年4回予定）

## ★環境部会★

- ・区内一斉  
ゴミ拾い運動
- ・越前カンタケ  
づくり
- ・お正月寄せ植え
- ・花いっぱい運動



## 《わくわくしあわせ交流活動》

- ・わくわくしあわせ交流会
- ・各地区サロンへの参加

## 《高齢福祉活動》

- ・かみむらカフェ（毎週火曜日）
- ・地区敬老事業（お祝い品配布）
- ・一人暮らし高齢者見守り活動



## ★福祉部会★



- ・かみむら  
ラジオ体操会
- ・夏休み子ども  
壁新聞講習会
- ・親子ふれあい  
まち歩き
- ・かみむらフェスタ  
（子どもコーナー）
- ・クリスマス会  
餅つき

## ★子ども部会★

## ★防災部会★

- ・防災訓練・避難訓練設備見学・講演会等
- ・防災研修
- ・防災体験コーナー設置  
（かみむらフェスタ）
- ・防災士免許取得



## ★全体事業★

- ・かみむらフェスタ
- ・イルミネーション点灯式
- ・旧島崎家離れ保存活用の検討
- ・「江留上誕生1200年記念誌」作成
- ・コラム「かみむら物語」連載



春江ちりめんの里保存活用委員会では、春江ちりめんの歴史を後世に伝えるために歴史的資料の収集をするとともに、旧島崎家を中心に歴史散策をしたり学習会を開催したりしています。

この度は、スマイルホール入り口に収集した歴史的な写真の展示スペースを設置しました。見ごたえのある展示になっています。ご覧いただきたいと思ひます。

かみむら  
カフェ  
開催中

かみむらカフェの毎週火曜日は多くの方で賑わっています◎  
6月24日は《防災講座》、7月8日は《コーラスyou》さんの  
合唱を予定しています。お気軽にお越しくださいね♪





青少年育成市民会議南部支部  
渡辺支部長より、春江小学校新一年生  
の子どもたちへお祝いの品  
が送られました！



## おらせ

6月、7月のイベント情報(予定)です！

# 6月

22日(日)



### チャレンジランキング大会

(春江町子ども会育成連絡協議会主催)  
※後日学校からおたより配布



# 7月

26日(土)



### かみむらラジオ体操会

(青少年育成坂井市民会議  
南部支部主催)



# しょうぎ 教室 が 始まりました！



センター長と  
えいえいおー！！



## 新 任 ご あ い さ つ

4月から江留上コミュニティセンターでお世話になっている  
坪川淳一です。かつて春江中学校や春江小学校などで長らく教  
員として勤務させていただいた頃は、(親しみを持って、あるい  
は憎しみも滲ませながら)「つぼジュン」と子どもたちからは呼  
ばれていたようです。ですから、地区の皆さんも親しみを込めて  
「つぼジュン」と呼びください。

Well being な江留上の実現のため、センター職員と心を一  
つにして頑張ります。よろしくお願ひします。

センター長 坪川淳一

4月より江留上コミュニ  
ティセンター勤務とな  
りました井上です。明るく  
楽しい対応を心がけ、地  
域の皆さまのお役に立  
てるよう頑張ります。よ  
ろしくお願ひいたします。

センター職員 井上

前回は、教育博物館を紹介しました。教育博物館は福井県教育総合研究所内にあり、自治研修所も併設した福井県における教育を司る中心的な複合施設と言えるでしょう。さて、この施設の建物は元春江工業高校の校舎でした。通学する高校生の姿や、放課後の部活動で学校周辺を走る姿を懐かしく思う地元の方も多いのではないのでしょうか。2013年春の甲子園出場では、地元一丸で応援したのも良い思い出です。

春江工業高校は、1963年（昭和38年）、当時春江町の主力産業であり主要輸出品であった繊維産業に必要な人材育成と、新技術に対応できる知識を取得することを主目的として、春江中学校移転後の跡地に誘致されました。周囲の土地の提供も受け、敷地を拡げ校舎を建設しました。当初は男子校で機械科と電気科が設置されましたが、建設が間に合わず、校舎・実習工場・体育館などを順次建設を行いながらの運営でした。

1965年頃、戦後の高度成長を果たした日本からの輸出量急増が国際問題となりました。1972年の日米繊維交渉では、アメリカのリチャード・ニクソン政権が対敵通商法で輸入制限をちらつかせたために、日本は対米輸出自主規制を受け入れざることをえない状況に追い込まれました。このことから、国内の繊維産業に陰りを見せ始めることとなり、繊維の次の主力産業の育成を模索することとなります。春江工業高校でも、1970年に自動車科の設置。1993年に情報システム科を設置し、男女共学化なども行われました。

その頃の地元繊維産業界の葛藤を、坪金工業株式会社元社長である坪内琢磨氏の春江町政60周年（2002年）に寄せた文章に見てとることが出来ます。『町発展と春江ちりめん』より一部抜粋加筆して紹介します。

一、絹織物産地の勃興 明治20年初頭より織物工場群が続々発生した。周辺農村より多くの従業員が集まり、土木建築が起き、機業関連の業者、商店ができて人口増加をもたらした。明治34年、職工数286名、大正8年に2,300名となった。江留上を例にとると、明治37年60戸、260名が大正9年359戸、2,476名となっており、人口の三分の一以上が入寄留者であった。

一、絹織産地の全盛時代 明治42年に原動機使用の工場に転換、大きく発展。同44年春江借用購買販売組合が結成され機業地隆盛の原動力となった。広巾羽二重の製織から、大正初期には、フランス縮緬、小巾縮緬、織物等多品種生産地へと変貌し、黄金時代を迎え、春江特産の絹織物は全国的に有名な大産地となった。織物生産高が増え大正8年には絹糸倉庫ができ、運送手段として鉄道も必要となり、大正15年春江駅創設につながった。大正14年多額納税者県下百名中、春江で10名、内8名が機業主であった事でも盛況ぶりがうかがえる。商店が増え、映画館もでき、職工の賃金も高く、多くの従業員が寄宿舍におり、夜になると商店街に繰り出し、上村はいつも祭りのようだと言われるほど賑わった。生糸暴落、昭和初期の恐慌の波を受けながらも、人絹の生産増も行い、昭和10年には5,200台、従業員3,300名の大産地を形成していた。

一、戦後の復興 昭和18年太平洋戦争による企業整備で激減、震災もあり産地機業の受難試練の時代があった。その後の復興の過程で、絹織物と人絹、合繊維物工場は専門化されて行った。春江ちりめんは昭和38年に組合精練加工場も作られ、昭和48年には組合員60名、3,000台と全国主要産地にまで復興を遂げた。その後、需要減、輸入増により縮小を余儀なくされつつ伝統産業として守りつがれている。町制六十周年を迎え、新生春江町の幕開けにふさわしい、時代に適応した新産業が芽生えることを念じてやまない。（以上抜粋）

日米貿易摩擦は結果として、日本は繊維産業を捨てて自動車産業を守ることとなりました。（今回のトランプ関税では、何を捨てて何を守ることになるのでしょうか？）春江工業高校は、少子化対策や専門性を高めるための高等学校再編整備計画により、2014年坂井高等学校に再編統合され、2016年最後の卒業生を送り出し53年の歴史に幕を下ろしました。創立時の人材の育成と教育による産業への貢献という希望は、その跡地に設置された教育研究所と科学技術の研究開発を行う国立研究開発法人産業技術総合研究所（産総研）北陸デジタルものづくりセンターによって引き継がれたといえるでしょう。産総研は本年度増築工事が始まり、更なる発展が期待できるようです。春江工業高校は、その設立により技術を持った多くの人材を輩出し、自分の技術力（手に職）で独立し生計を立てるといふ春工気質というべき風土を地元を広げた存在であったといえるでしょう。校訓は『自主・創造・友愛』でありました。